

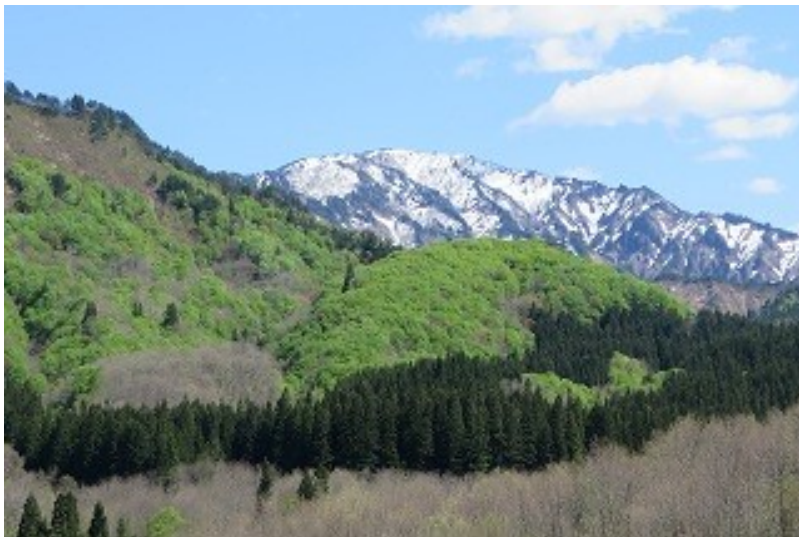
山行NO NO. 1736
日時 2017.05.03(水)快晴
山域 越後・御神楽岳(1387m)
コース 関越道—北陸道—磐越道—津川IC—R49—R227—室谷・セト沢林道終点発5:55
—登山口6:19—御神楽岳9:54~10:29—林道終点13:30
標高差 上り 林道終点約250m~御神楽岳1387m=約1137m
下り //
参加者 L=GT、KH

素晴らしい大展望の山

今年の5月連休は、当初、昨年のリベンジで、唐松岳~五竜岳だったが、私が3月スキーで脚を痛め、まだ回復が十分でなかったこと。また、昨年の仲間の山行が思うようにならなかったこと。私も年齢を重ね、未踏の山に上りたかったこと。などで結局、越後の山を選んだ。

計画では、三つの山に上る。最初は、菱ヶ岳~五頭山だったが、元気がある最初に、一番大変と思われる御神楽岳に決めた。

前日、室谷から常浪川を渡り、セト沢方面を下見したが、イマイチ登山口がハッキリしなかった。しかし、2万5千円をよく見ると分かって一安心。



御神楽山遠望

室谷は、山菜宝庫。道路途中に「検問所」があり、入山者から、1000—徴収するようだ。また、オカシナ看板があって、ゼンマイ取りは「午後から入山禁止」とあった。意味がよく分からなかったが、「午後からの入山は、時間切れになる可能性があるから」と思った。辺りは、菊咲一華・片栗が凄く、雪が融けた斜面に一斉に咲いていた。

セト沢林道を標高250mまで入ると、林道にブロック雪崩があり道を塞いでいた。右手の斜面が急斜面の崖で、上部からの雪崩が凄い。車はこの手前に置いて出発。他、山菜取りの車が1台。雪が多い林道を進む。今度はフキが凄い。雪国のフキは特に美味しい。林道を30分で登山口着。沢沿いを上る。最初から雪の斜面。ただ、下部は腐っているので、アイゼンは履かない。



新緑が眩しい雪の斜面を上る。雪解けの沢の音が響く。

暖かく、青い空、白い雲。ブナの芽吹き、風も柔らかい。そして静か。連休でも誰も居ない山。

サイコーの舞台だった。サクサク上って行く。次第に周囲の山々が上がって来る。

今年は雪が多く、山々はまだ真っ白だった。知らない山域に来て、山座同定が難しい。

それでも北に飯豊連峰、その後ろは、朝日連峰。北東に昨年秋に再登した、会津磐梯山。

南西には大きな長い裾を広げる、先日上った守門岳、そしてその後ろに浅草岳。

浅草岳を滑った、早坂尾根がハッキリ大きく確認出来て嬉しかった。

ハハ～、当たり前だが、早坂尾根は、やっぱり北に向かっている。

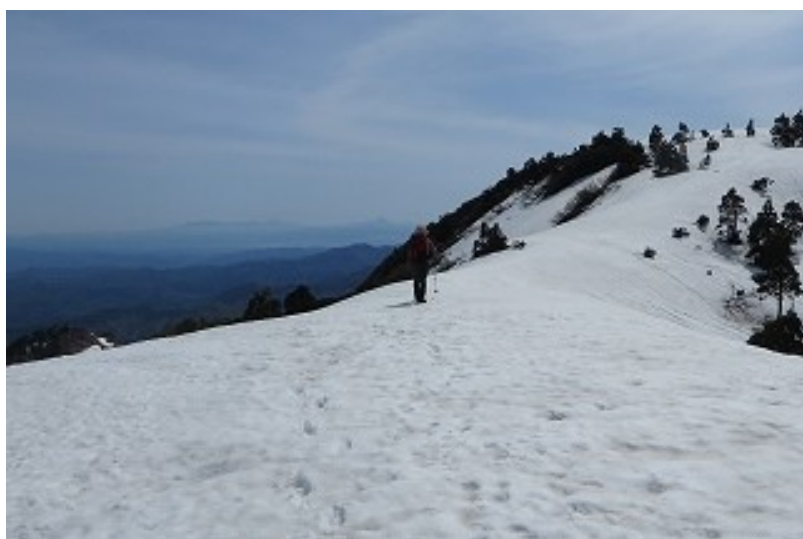
途中からアイゼンを履いた。やっぱり履かないと効率が悪い。



サクサク上る



飯豊連峰遠望



スキーが出来そう



尖がりピークが御神楽岳

ひと上りで、雨乞峰着。相方は以前、ここから北に延びる、蟬ヶ平コースを上ったという。ヤマレコ記録では、このコースは、急峻で余り上られていないので、難しいようだ。大人数で、雨乞峰までで、本峰に時間切れで上れなかったという。今回、それが達成されるようで、喜んでいた。雨乞を一旦下り、上り返して、祠を左に見て頂上着。



御神楽岳頂上



ナガラミを喰う



方位板

祠の先は少しガシていたが、無事頂上着。なかなか手応えがあった。
越前岳より低い山だが、登山開始点の標高が低く、標高差が1100m以上。雪も多く、侮れない。
頂上の方位板が笑ってしまった。何と、ソウル・モンゴル地方・アムール地方とあった。
う〜ん、国際的というか、確かに日本海の向こうは、それらだが・・・。
頂上は風がなく暖かく、シアワセだった。腹が減って、ビアとナガラミが美味かった。



菊咲一華



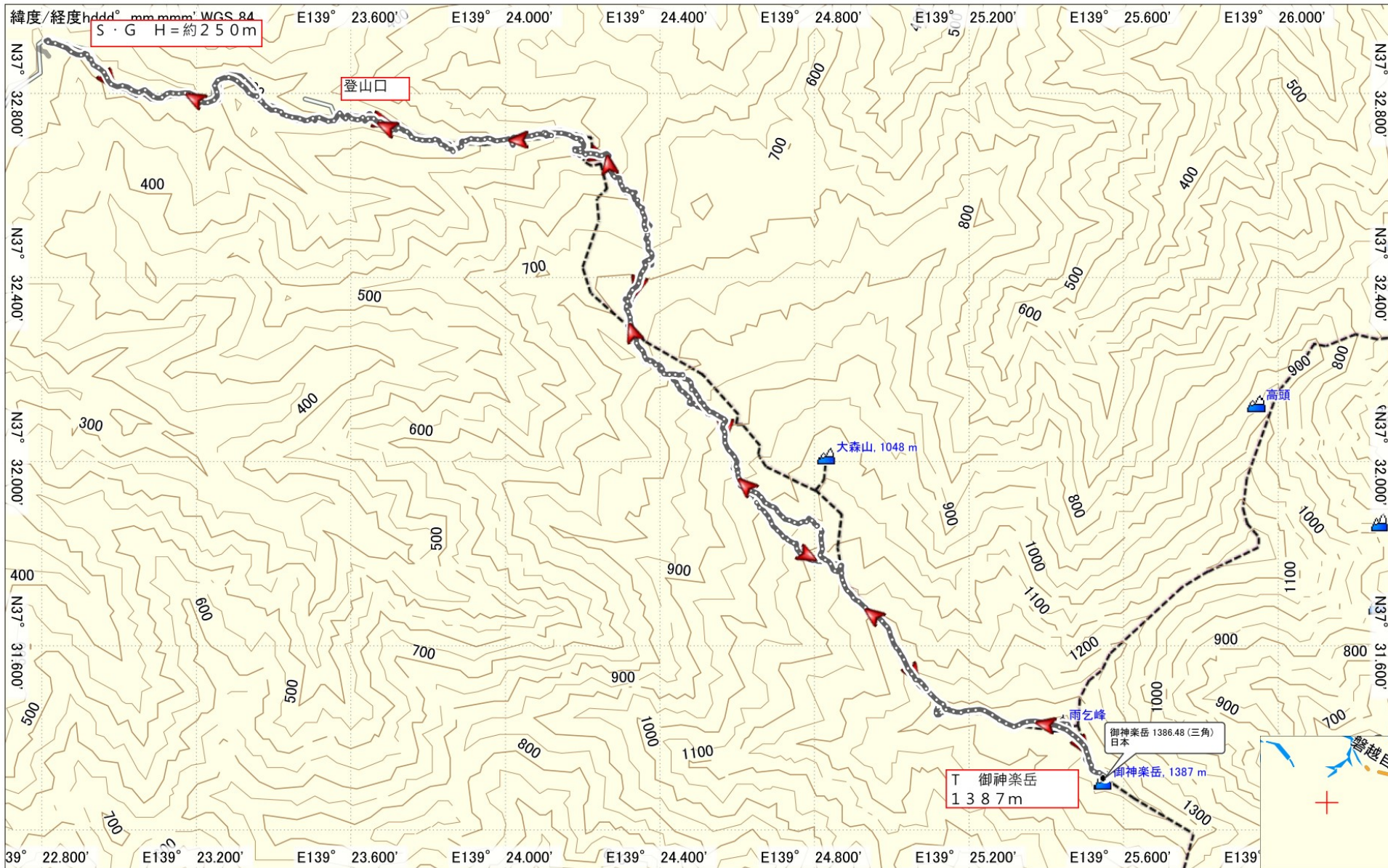
雪椿

下山は、サクサクと下る。残雪山の下降は快適。

ただ、既に上りのトレールは消えているので、慎重に下る。朝、閉じていた花々は、陽光で満開。正に春だった。フキを採って下る。このフキはサイコーの味だった。

温泉は、みかぐら荘（700-）。展望風呂がイイ。地元のオジサンが朝採りの天然ウドを購入。これも美味。やっぱり越後の山は素晴らしい！！

（了）



Japan Topo 10M Plus V3
 CanvasMaple Co., Ltd 2014
 Garmin Corporation 1995-2014

2017/05/07 5:37:48

GARMIN